

ケニア

Republic of Kenya

	2008年	2009年	2010年
①人口:3,980万人(2010年)			
②面積:59万1,958km ²			
③1人当たりGDP:809米ドル* (2010年)			
④実質GDP成長率(%)	1.5	2.6	5.6*
⑤貿易収支(米ドル)	△61億5,358万	△57億2,911万	△67億8,516万*
⑥経常収支(米ドル)	△19億7,453万	△16億834万	△25億1,460万*
⑦外貨準備高(米ドル)	28億7,852万	38億4,896万	43億2,015万
⑧対外債務残高(米ドル)	59億7,659万	63億1,161万	△66億7,585万*
⑨為替レート(1米ドルにつき、 ケニア・シリング、期中平均)	69.18	77.35	79.23

〔注〕*暫定値。⑤⑥:ケニア・シリング建てを⑨の為替レートでドル換算したもの
〔出所〕①②④⑤⑥:ケニア国家統計局, ③⑦⑨:IMF, ⑧:ケニア中央銀行

■ 内需が経済成長を牽引

2010年のケニアの実質GDP成長率は5.6%と、前年の2.6%から上昇した。需要項目別では、GDPの8割を占める民間最終消費支出(6.6%増)、政府最終消費支出(8.9%増)、総固定資本形成(7.3%増)とも伸び、国内最終需要の伸びは6.4%であった。また、産業別にみると、良好な天候によって、GDPの2割以上を占める農林業(6.3%増)が好調だったほか、水力発電の電力供給量回復と世界経済の回復による外需拡大によって製造業(4.4%増)が伸びた。このほか、卸売・小売(7.8%増)、運輸・通信(5.9%増)、金融(8.8%増)などが好調であった。政府は2011年の実質GDP成長率を3.5~4.5%と予測、2010年よりやや鈍化するとみている。なお、2010年後半以降、干ばつによる食料価格の上昇や原油価格の高騰によって物価が上昇、2011年5月の消費者物価上昇率は前年同月比13.0%に達している。

■ 輸入の増加により、貿易赤字は拡大

国家統計局によると、2010年の輸出(再輸出を含む)は

4,097億9,370万ケニア・シリング(以下Ksh。前年比18.8%増)、輸入は9,473億8,190万Ksh(20.2%増)だった。世界経済の回復に伴い、農産品価格が回復、非石油製品の交易条件が改善したが、原油価格の高騰や好調な国内経済によって輸入が輸出の伸びを上回り、貿易赤字は拡大した。

輸出のうち、94%の3,857億Kshは地場輸出だが、東アフリカの玄関口であるモンバサ港を活かし、再輸出が241億Kshと6%を占めた。

地場輸出を品目別にみると、紅茶、園芸作物、コーヒーの3品目で46.7%を占めた。紅茶の輸出額は、シリング安と生産が好調だったことにより輸出量が増加したことで33.2%伸び、前年に続き最大の輸出品目となった。2位の園芸作物(バラなど)は、アイスランド火山の噴火による航空便欠航の影響などで生鮮品輸出は減少したものの、加工品を含めると前年比10.5%増加した。コーヒーは害虫被害で生産量と輸出量は減少したものの、新興国の需要増加などによる国際価格高騰で、輸出額は6.1%増加した。

表1 ケニアの主要商品別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ケニア・シリング、%)

	輸出(FOB)					輸入(CIF)			
	2009年		2010年			2009年		2010年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
紅茶	68,766	91,617	23.8	33.2	産業用機械	130,929	168,564	17.8	28.7
園芸作物	65,220	72,093	18.7	10.5	石油製品	99,550	122,004	12.9	22.6
コーヒー	15,309	16,244	4.2	6.1	原油	54,495	72,598	7.7	33.2
衣料品・アクセサリ	13,948	15,561	4.0	11.6	自動車	50,115	55,812	5.9	11.4
鉄鋼	9,073	12,127	3.1	33.7	鉄鋼	33,776	43,558	4.6	29.0
たばこ・同製品	10,411	10,562	2.7	1.5	動植物油脂類	27,569	38,956	4.1	41.3
動植物油脂類	5,910	9,893	2.6	67.4	プラスチック原料・同製品	26,462	35,995	3.8	36.0
エッセンシャルオイル	8,231	9,625	2.5	16.9	医薬品	22,994	27,879	2.9	21.2
セメント	7,766	7,399	1.9	△ 4.7	紙・板紙	13,756	17,748	1.9	29.0
ソーダ灰	8,305	7,265	1.9	△ 12.5	非製粉小麦	13,841	17,451	1.8	26.1
プラスチック製品	5,916	6,793	1.8	14.8	有機・無機化学薬品	12,612	16,127	1.7	27.9
医薬品	5,185	5,862	1.5	13.1	砂糖・糖蜜・蜂蜜	8,064	14,551	1.5	80.4
魚・同調製品	4,391	5,029	1.3	14.5	化学肥料	15,238	14,186	1.5	△ 6.9
合計(その他含む)	323,571	385,666	100.0	19.2	合計(その他含む)	788,097	947,382	100.0	20.2

〔注〕輸出には「再輸出」は含まない。2010年は暫定値。

〔出所〕表2とも、ケニア国家統計局「エコノミック・サーベイ2011」。

表2 ケニアの主要国別輸出入<通関ベース>

(単位: 100万 Ksh, %)

	輸出(FOB)					輸入(CIF)			
	2009年		2010年			2009年		2010年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
ウガンダ	46,240	52,108	12.7	12.7	中国	72,524	120,648	12.7	61.9
英国	38,496	40,211	9.8	4.5	アラブ首長国連邦	89,709	116,045	12.2	29.4
タンザニア	30,087	33,211	8.1	10.4	インド	83,243	103,242	10.9	24.0
オランダ	26,331	26,868	6.6	2.0	南アフリカ共和国	70,561	59,781	6.3	△15.3
米国	17,422	22,522	5.5	29.3	日本	48,857	58,244	6.1	19.2
アラブ首長国連邦	10,716	18,856	4.6	76.0	米国	50,056	39,316	4.1	△21.5
スーダン	12,763	18,824	4.6	47.5	英国	36,885	37,869	4.0	2.7
エジプト	11,885	18,116	4.4	52.4	サウジアラビア	27,522	32,274	3.4	17.3
パキスタン	15,172	18,069	4.4	19.1	シンガポール	26,419	31,739	3.4	20.1
ソマリア	11,215	13,056	3.2	16.4	ドイツ	22,729	26,367	2.8	16.0
合計(その他含む)	344,949	409,794	100.0	18.8	合計(その他含む)	788,097	947,382	100.0	20.2

[注] 再輸出を含む。2010年は暫定値。

再輸出を含む輸出全体を地域別で見ると、アフリカ向けが前年比 16.1%増の 1,889 億 7,500 万 Ksh となり、全体の 46.1%を占めた。2010 年以降、ケニアからの輸出品に対しても関税が撤廃された東アフリカ共同体(EAC)加盟国(ウガンダ、タンザニア、ブルンジ、ルワンダ)向けは、前年比 12.0%増と、輸出全体の伸びよりも低かったものの、輸出額は 1,013 億 1,300 万 Ksh と全体の 24.7%を占めた。EAC 向けには、主に化学製品、工業製品、機械類・輸送用機器などが輸出されている。

輸入では、産業用機械が伸び、前年に続き最大品目となった。原油・石油製品は輸入量が減少したが、国際価格の上昇とシリング安により金額ベースでは増加した。

地域別では、アジア(中東を含む)からの輸入が前年比 28.5%増の 5,679 億 2,100Ksh となり、全体の 59.9%を占めた。特に中国は、工作機械や通信関連機器などが伸び、61.9%増の 1,206 億 4,800 万 Ksh を記録、アラブ首長国連邦(UAE)を抜いて最大の輸入相手国となった。3 位のインドも 24.0%増の 1,032 億 4,200 万 Ksh であった。また、欧州(構成比 21.5%)は 18.6%増の 2,039 億 1,400 万 Ksh となった。そのうち EU からの輸入は 1,716 億 5,200 万 Ksh (21.9%増)で、フィンランドからの輸入が航空機や発電関連機器の増加によって前年比 3.3 倍の 141 億 6,700 万 Ksh に急増した。EAC 諸国からの輸入では、乳製品やメイズ(とうもろこしの一種)が伸びたウガンダが 2.1 倍の 92 億 2,700 万 Ksh、米と砂糖が伸びたタンザニアが 35.1%増の 105 億 4,900 万 Ksh となった。

■ 新規投資申請が増加

ケニア国家統計局によると、2010 年の対内直接投資(国際収支ベース、ネット、フロー)は、147 億 2,100 万 Ksh (前年比 63.7%増)となった。

ケニア投資庁によると、2010 年の新規投資申請件数(自国企業による投資を含む)は合計 137 件(前年比 28

表3 ケニアの主要国別新規投資<申請ベース>

(単位: 件, 100万 Ksh, %)

	2009年		2010年		
	件数	金額	件数	金額	構成比
中国	5	517	10	40,302	22.0
オーストラリア	0	-	1	16,000	8.8
イスラエル	1	80	2	4,010	2.2
英国	16	19,205	13	2,187	1.2
韓国	0	-	1	1,000	0.5
インド	7	2,904	8	660	0.4
デンマーク	2	30	1	600	0.3
スリランカ	0	-	2	466	0.3
エチオピア	0	-	1	455	0.2
フランス	0	-	2	400	0.2
合計(その他含む)	109	126,026	137	182,784	100.0

[注1] 件数・金額は他国企業との合併を含む。

[注2] 合計件数・金額はケニア企業による投資申請を含むため、外国からの対内直接投資の件数・金額ではない。

[出所] ケニア投資庁(KIA)のデータを基に集計。

件増)、申請金額は 1,827 億 8,400 万 Ksh (45.0%増)だった。最大の案件は、不動産開発のディアスポラ・ホームズ(ケニア、800 億 Ksh)で、全体の 43.8%を占めた。外国企業による案件では、中国大連国際経済技術合作集団(384 億 Ksh)の道路建設や中国葛洲バ(※土偏に貝)集団(中国、12 億 Ksh)のインフラ建設があり、中国企業による申請額が、総額で 403 億 200 万 Ksh と最大となった。中国企業による投資は、これまでインフラ建設など公共事業分野が大きな割合を占めてきたが、ほかの分野への投資の動きもみられる。通信の分野では、中国華為技術が 2010 年 9 月以降、国内最大手の携帯電話会社サファリコムと共同で 100 億 Ksh 規模の 4G 事業に取り組んでいる。2011 年 3 月には、中国 ZTE コーポレーションがテルコム・ケニアと 40 億 Ksh 規模の第 3 世代(3G)ネットワーク事業に関する業務提携を発表した。また、2011 年 4 月には、自動車メーカーの北汽福田汽車(フォトン)が、2012 年 5 月までに自動車組み立て工場をナイロビに建設すると発表した。投資額は 12 億 Ksh で、年間 1 万台の生産を目指す。

このほか、鉱業のベース・チタニウム(オーストラリア, 160億Ksh), 灌漑設備建設のハイドロ・エコ(イスラエル, 40億Ksh), ホテル業のハンソン・ホテル&リゾート(韓国とケニアの合弁, 10億Ksh)が10億Kshを超えた。国別・業種別の投資傾向としては、欧米が観光とサービス, インドと南アフリカがサービスと情報通信の分野が中心だった。

ケニア経済の持ち直しに加え, 経済成長を続ける周辺国への事業展開も見据えての投資が増加している。2011年中には, フィンランドの携帯電話会社ノキアや米国電子決済大手ビザ・インターナショナル, 英国系金融大手HSBCなどが, 地域拠点としてケニアに投資する予定だ。

■ 輸出増で日本の貿易黒字が拡大

日本の貿易統計(通関ベース)をドル換算すると, 日本の2010年の対ケニア輸出は, 6億1,742万ドル(前年比15.7%増), 輸入が4,023万ドル(7.5%減)となり, 貿易黒字は5億7,719万ドルと17.7%拡大した。

日本の輸出では, 主要品目である, 乗用車(構成比38.4%, 前年比29.7%増)や貨物自動車(23.1%, 20.3%増)などが伸び, ケニアで普及が進むオートバイ(1.1%)も倍増した。日本の輸入では, 最大品目の切花(生鮮)の中で大半を占めるバラが増加し, 順調に拡大した(構成比24.9%, 前年比14.7%増)。ケニアは前年に続き, 日本にとって最大のバラの輸入相手国だった。一方で, 2009年に増加したカテキン抽出用の茶濃縮物のケニアからの輸入は減少し(22.3%, 19.3%減), 中国からの輸入が再び増加したため, 同品目ではケニアからの輸入は2位に後退した。コーヒー豆も, ケニアの生産量の低下および国際的な需要増に伴う調達競争により, ケニアからの輸入量が減り, 金額ベースでも減少した(16.9%, 17.7%減)。

財務省の直接投資統計には, ケニアへの直接投資は計上されていないが, ケニア投資庁によれば, 日本企業の投資申請案件は, 2010年にサービス分野で1件あった。近年ケニアは, 同国を足掛かりに周辺国市場への参入を図る観点で, 注目され始めている。